

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第18週	第17週	第18週		第17週		第18週		第17週		第18週		第17週		第18週		第17週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	148	296	5	20	33	67	5	8	19	29	0	12	3	28	0	0	11	10
咽頭結膜熱	17	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	82	149	1	0	13	0	0	0	11	0	0	0	0	0	1	0	2	0
感染性胃腸炎	114	230	4	9	53	25	0	0	51	7	0	2	0	15	4	7	2	3
水痘	36	14	0	0	2	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0
手足口病	10	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発疹	24	40	1	0	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0
ヘルパンギーナ	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	7	7	0	1	1	7	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	5
RSウイルス感染症	41	52	4	1	4	1	2	0	3	1	0	1	0	0	2	0	1	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0	0		0	
流行性角結膜炎	10	16	0	5	0	5	0	5	0	5		0		0	0		0	

※平成30年1月1日より百日咳が全数把握疾患となりました。また、風しんの届出が「診断後7日以内」から「診断後直ちに」と変更になりました。
 ※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数把握疾患となりました。

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況

〈RSウイルス感染症の小流行が続いています〉

飛沫感染対策としてマスク着用や咳エチケット、接触感染対策として手洗いや手指衛生といった基本的な対策を徹底することが必要です。

麻しんに注意！！

沖縄県にて麻しんの流行が続いています。麻しんは麻しんウイルスによって引き起こされる全身感染症です。感染力は非常に強いと言われています。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症します。

○症状と経過

- 潜伏期間は10～12日間です。
- 潜伏期のあとに38℃台の発熱、せき、鼻水、めやに、目が赤くなる、体がだるいといった症状が出はじめ、症状は4～5日間続きます。この時期がもっとも感染力が強いです。
- その後、口の中の粘膜に白いつぶつぶ（コプリック斑）ができます。このコプリック斑が口の中にあらわれると、熱は一時的に下がり、ほとんどの人は翌日から首すじ・顔に発しんが出はじめ、全身に広がり、39～40℃台の高熱が3～4日続きます。



○感染したと疑われる場合

麻しんが流行している地域への旅行後、麻しんに感染したと疑われる症状があった場合、事前に医療機関へ電話連絡してから、受診してください。感染拡大を防止するために周囲との接触を最小限にする必要があります。

○感染経路と対策

- 麻しんは空気感染します。
- 麻しんに罹患しているものと同じ空間(飛行機、電車、レストラン等)にいると感染するリスクが高いです。
- 麻しんウイルスは感染力が非常に高いため、手洗い・マスクのみでは予防できません。
- 最も有効な予防法は予防接種です。



○予防接種について

- 平成2年4月以降に生まれた方は、2回の麻しん含有ワクチンが定期接種となっています。
- 予防接種を受けていない、または1回のみの方は感染するリスクが高く、医療従事者や学校関係者・保育福祉関係者など麻しんに感染することで周りへの影響が大きいと予測される場合には、流行している地域に出かける前に予防接種について、かかりつけ医にご相談ください。

〈定期予防接種の望ましい時期〉

- 1期：1～2歳に至るまでの間に1回
- 2期：小学校就学前の1年間に1回

